

## 2 ホオズキ類の発生と防除

### 1 発生状況

ホオズキ類は、愛知県で2005年ごろからダイズほ場での被害が報告されるようになりました。2008年、2009年の調査では、発生ほ場数こそ帰化アサガオ類ほど多くないものの、県内ほぼ全域の16市町村で確認されており、今後の発生拡大に注意が必要です。



### 2 特徴

ホオズキ類はナス科の植物で、8月から10月にかけて開花・結実します。県内では以下の4種類が確認されています。

ダイズを覆うヒロハフウリンホオズキ

#### (1) ヒロハフウリンホオズキ(写真1)

葉は卵形で鋸歯があります。直径1cm程度の五角形で黄色の花をつけ、果実は「がく」が発達した袋に包まれています。県内でもっとも発生の多いホオズキです。

#### (2) ホソバフウリンホオズキ(写真2)

ヒロハフウリンホオズキとよく似ていますが、葉は細長い披針形で、白色の花をつけます。少数ですが本種が優占しているほ場が見られます。

#### (3) イヌホオズキ類(写真3)

白い花弁が反り返り、おしべが突き出たようになっています。剥き出しの黒い果実は4～8個まとまってつきます。愛知県では主にイヌホオズキやオオイヌホオズキをみかけます。オオイヌホオズキは果実の中に直径0.5mm程度の球状の顆粒があり、イヌホオズキと区別できます。県内ではほ場内での発生は少なく、多くが畦畔での発生です。

#### (4) ナガエセンナリホオズキ(写真4)

白い円形の花をつけ、果実は袋に包まれています。県内では2008年現在、ごくわずかな発生にとどまっています。



写真1 ヒロハフウリンホオズキ



写真2 ホソバフウリンホオズキ



写真3 イヌホオズキ



写真4 ナガエセンナリホオズキ

### 3 被害状況

#### (1) 生育阻害

ホオズキ類は生育が旺盛なため、ダイズに対して養分収奪と光の遮へいによる生育不良および減収を起こします。

#### (2) 収穫作業の阻害

多発ほ場ではコンバイン内部で詰まるおそれがあり、収穫作業そのものが不可能になることがあります。

#### (3) 汚粒発生

ホオズキ類は、ダイズ成熟期でも茎や果実に多くの水分を保持しており、発生が少なくても、コンバイン収穫時に汚粒発生の原因となります。

### 4 防除対策

#### (1) 畦畔からの侵入防止

既に、畦畔でホオズキ類の発生が認められるほ場が多く確認されています。ホオズキ類は、水田輪作において水稲作を経たほ場でも発生が減らないとの報告もあり、一旦ダイズほ場に侵入すると非常に厄介な雑草です。帰化アサガオ類と同様に、ホオズキ類は、畦畔から畦畔周辺部、その後ほ場中心部へ侵入します。そのため、畦畔に発生したホオズキ類は、結実前に確実に取り除く必要があり、刈り払うか効果のある除草剤（グリホサート剤、グルホシネート剤など）を散布するなどして、ほ場内への侵入を許さないことが大切です。

#### (2) リニュロン水和剤の畦間・株間処理

農業総合試験場では、吊り下げノズルを装着した乗用管理機を利用したリニュロン水和剤の畦間・株間処理(写真5)について検討しました。

その結果、愛知県で発生の多いヒロハフウリンホオズキやホソバフウリンホオズキに対して、高い除草効果が得られました。また、土壌処理効果もあるため、散布後の発生も認められませんでした。なお、イヌホオズキについても同様の結果が得られています。

散布作業の能率は条間 65cm×3条の条件で 18.4分/10a と効率的でした。なお、雑草の成長点に薬剤をかけないと除草できないことから、効果を安定させるためにはホオズキ類の草高が低いうち(ダイズの生育状況や条間にもよりますが、できれば 15cm 以下)に散布してください(写真6)。



写真5 乗用管理機による畦間・株間処理の様子



写真6 草高約20cmのヒロハフウリンホオズキ  
畦間・株間処理はこれより早い時期に